

みんなが楽しめるまちと人づくり

— 公民館の可能性は館の活用を広げること —

河合公民館

1 河合地区の概要

福井市の北部、九頭竜川と日野川の合流地点にある河合地区は、肥沃な田園地帯で古くから農業が盛んである。明治以降は、九頭竜川の河川改修や堤防整備により洪水の発生もなくなった。また昭和 50 年代には地区東部に団地が造成され、現在は旧地区と新地区が混在する、安全・安心で住みよい地区となっている。地区内には、県工業技術センターや繊維関係の工場、国の登録有形文化財になっているえちぜん鉄道鷺塚針原駅の駅舎がある。

旧地区では3世代同居が多いとはいえ、近年、高齢世帯や独居世帯が増えたこともあり、地区の活力の低下や絆の希薄化などの課題が見られるようになってきた。このような現状を踏まえ、地区では特色を活かした様々な活動を行い活性化に努めてきた。公民館も教育事業を中核に「学び・集う」ことで住民が豊かな人生を送る河合地区を目指し、共に絆作りを進めてきた。

令和2年2月1日現在、人口は3,860人、世帯数は1,326戸である。

2 地域課題の解決を通し、楽しみながら

やる気と活気のある地区に

河合地区は団結力が強く、九頭竜風あげまつりや蕎麦まつりを行う「河合ニコニコ王国フェスタ」をはじめ各種団体の催事が盛んに行われ、地区の活性化に大きく貢献してきた。しかし、年数を重ねる中、費用がかさむこと、実行委員の負担が大きいこと、役員の高齢化などの課題が出てくるようになった。

そこで平成 28 年に河合地区主行事検討委員会を立ち上げ、行事の再構築を図ることにした。そこでは、大きな催事をまとめて1日で行い、それぞれの相乗効果を高めつつ、かつ負担が少なく楽しい交流の場や発表の場を創ることを目指した。

改革の一つは文化祭である。これまでPTAのバザーや社協のふれあい広場と一緒に、小学校で10月に開催していたが、会場設営や準備など負担が大きかった。

そこで、PTAバザーとふれあい祭りを9月の河合ニコニコ王国フェスタの日に移し、文化祭を小型化して独立させ、公民館で10月に行うこととした。

これにより準備物の大規模な移動がなくなり、またニコニコ王国フェスタの運営に年齢の若いPTAの方が加わることもなり、スタッフの負担軽減と若返りを図ることができた。

(1) 自主グループの発表を「ほっとコンサート」で

河合公民館の自主グループは音楽が多く、文化祭の発表は音楽中心となる。そこで、講座生が意欲的に発表でき、地域の文化的な楽しみの



【コカリナの演奏】

場も増えるようにと、自主グループの発表を文化部門事業「ほっとコンサート」と名称を変え、年10回程度に分散して行うこととした。

この「ほっとコンサート」は、前売りチケット制である。会場の公民館をライブ会場のようにセットし、当日はお茶やお菓子を準備した。出演者たちは、楽しみながら企画・運営に参画し、自分たちでも参加者を募った。そして、当日はちょっとおしゃれをし、コンサートの主役として出演した。

今では、地区だけでなく地区外からの参加も増え、みんなで楽しむこのコンサートは、地区の自慢の一つになりつつある。

(2) 公民館で“本物”を楽しもう！

公民館をさらにみんなが集い・楽しむ場にすることを目指し、プロのコンサートを開催した。名称は「ほっとコンサート」のままだが、公民館ホールをコンサート会場のように整え、本物の雰囲気近づけた。これにはたくさんの方が集まった。令和元年はジャズコンサートで、「今宵、河合公民館はニューオリンズ・ジ



ジャズバー気分」をキャッチコピーに、3人のプロ(県内在住)の演奏を聴き、「お茶バー」で楽しんだ。主事もバーテンダーの服装で会場を盛り上げた。

上記(1)(2)のコンサートには、音響や照明などで公民館の自主グループ「河合音響倶楽



【ニューオリンズ・ジャズバー気分】

部」が活躍し、本場の雰囲気を出した。また、参加者・出演者には当日の受付・後片付けを依頼するなどして、役割を分担した。

このような企画を通して、参加者や講座生は、身近な公民館で本物に近い文化的なひとときを味わい、交流を深め合うことができた。また、公民館を多様な方法でグレードアップして活用できることが分かった。

3 河合に集まって楽しもう！

地区の活性化にとって、大きな負担にならずに、多様な世代の人が集まりたい場を創ることが重要だと考え、多くの方と知恵を出し合った。

(1)「Iら♥ぶ 河合」みんな集まれ！うらのKAWAIへ

市民憲章推進協議会河合支部等が中心になり、「河合をいろんな人に知ってもらおう！愛してもらおう！そして楽しい“かわい”にしよう！」をテーマに、鷲塚針原駅周辺で「いっぺん寄ってんで寝まって広場」を開催した。公民館は参加者募集のちらし作成と場所割り、参加者や出展者が準備・後始末等を行うなどして、特定の人の負担にならないよう工夫した。

当日は、ニコニコフリーマーケット、ライブコンサート、地区で採れた野菜の市場などで賑わった。ライブは初心者大歓迎である。また、自主防災会主催のロケットストーブでの飯盒炊飯体験や、公民館教育事業の蕎麦同好会のおろし蕎麦など、地区事業や公民館講座の成果も公開した。

この日は駅前に人が途切れることなく集まり、思い思いに表現し合い、集いを楽しむ1日となった。また、えちぜん鉄道から中吊り広告やちらしの配布などの協力を得て、河合地区



【いっぺん寄ってんで寝まって広場】

を他地区に発信する機会になった。

このイベントの趣旨は自分たちで考え作り上げることだが、力を合わせれば負担にならず、また少ない経費でいろいろなことができ、みんなが楽しめることも、開催を通して共有できた。

(2)年代、性別を問わず多くの方の参加を

会場が公民館に変更になった文化祭を「ハロウィンで文化祭！」とし、10月末に開催することとした。子どもたちや若い方にもたくさん参加してもらいたいとの思いからである。



当日は、自主グループの発表や地区から募集した展示、お茶や体操の体験コーナー、お菓子のつかみ取りなどの他、自主防災会と共催した気象に関する講演会「天気予報のミカタ」や、「河合音楽村」の発表などを行った。また、公民館教育事業「男の料理教室ビストロ河合」特製の「ハロウィン・カレー・ランチ」もあり、落ち着いた中で多世代の男・女が、「発表&ハロウィンパーティー」を満喫した。

夏休みには、子どもたちが企画したお化け屋敷や流しそうめんを開催し、共に活動するよさを感じ合った。



【お化け屋敷を企画した子どもたち】

4 終わりに

「田園地帯に音を響かせたい！そして音楽を通して笑顔が溢れる地区にしたい！」という思いから始めた「はっとコンサート」は5年目を迎えた。住民の間にも少しずつ浸透し、「自ら舞台に立ちたい！このグループを呼びたい！」という声も上がるようになってきた。また、河合を地区内外の多くの人にも知ってもらいたいとの思いから始めた「Iら♥ぶ 河合」にも、参加希望の声が多く上がるようになり手応えを感じている。

今後も年代と性別を問わない「音楽」というツールで人が繋がり、住民の声が響き合う明るい地域となるよう努めていきたい。

「みんなのキャンパス」として、集い・学び合っている河合公民館。地区の要として地域課題を解決しつつ、新しいアイデアで公民館の活用を工夫し、地区の活性化に努めておられます。ますますの発展を祈念します。